

9 月議会個別質問

日本共産党 駒形八寿子

2. 自転車通行空間整備事業について

本市では、八幡宿駅から若宮間約 2.1 kmの試行整備が計画されており、令和 8 年度には「自転車活用推進計画及びネットワーク計画策定」についての検討をしてお聞きしています。また、「【概要】自転車通行空間整備事業について」には自転車事故を減少させることを目的とすると書かれています。

本市においては、2023 年 123 件、2024 年 99 件の事故が発生しており、早急の自転車通行空間の整備が求められるのではないのでしょうか。

Q1. 自転車通行空間の整備を今後どのように進めていくのかお伺いします。

<答弁>

本市における自転車関連事故の発生件数は、議員ご案内のとおり、減少傾向は示しているものの、年間約 100 件程度の状況が続いております。

また、道路交通法の改正により、自転車の信号無視や右側通行、いわゆる「逆走」などの軽微な交通違反に対し、交通反則告知書を交付する青切符制度が令和 8 年 4 月 1 日から導入予定となっております。

このような状況を踏まえますと、道路内において自転車の通行ルールを可視化し、自転車の逆走防止や車の運転手への注意喚起を行うことは、市内における自転車関連事故の減少へと繋がっていくものと考えております。

市では、八幡宿駅東口から若宮団地に繋がる八幡宿東通りおよび若宮通りの路肩部約 2.1 キロメートルを対象に、青色の矢羽根状マークやピクトグラムによる路面標示を、試行路線として、今年度実施いたします。

なお、この試行にあたり、沿線住民の皆様や近隣する小中学校の児童・生徒の他、八幡高校の生徒等を対象に、整備前と整備後において「自転車通行に関する認識」や「自転車マナーに関する意識の変化」を把握するためのアンケート調査を実施し、試行整備の効果を検証することとしております。

市といたしましては、これらの検証結果を活かし、今後の整備対象路線への検討を進めてまいります。

<以上答弁>

自転車通行整備事業計画には通学路、商店街、市役所周辺を是非優先させ、計画に入れるよう要望致します。

本市は、自転車行政については、対策が遅れていると感じます。船橋市では、ゾーン 30 等の道路事業と合わせて街づくりと連携した総合的な取り組みや、健康、観光、安全・安心面から多岐にわたって計画が作られています。先進事例を十分に汲んだ取り組みを求めます。

また、試行の整備前後で行う住民のアンケート調査を十分に反映させ、自転車事故減少に繋げていただきたいと思います。